

令和元年度 第1回 都島区区政会議 安心・つながり・地域福祉部会 要旨

日時 令和元年 12 月 4 日（水曜日）

午後 7 時～8 時 45 分

場所 都島区役所 3 階会議室

- ・ 地域には新しいマンションがどんどん増えて、どういう方が住んでおられるのかも分からない状況なので見守りをするのも難しい。そのような方達とどのようにしてコミュニティ、地域のつながりをとっていったらいいのかというのが、地域の町会としての課題だと感じている。
- ・ 私は37歳、これまで地域コミュニティに参加したことがない。（地域コミュニティに対する考え方は）世代間で分かれていると思っていて、私は地域コミュニティが希薄になったのは、人々が選択して自然淘汰されたと思っている。
（これまで地域コミュニティに参加したことがないような人に参加してもらうためには、）新しい概念で新しい地域コミュニティを作らないと、今の社会には合わないのではと思う。
- ・ 地域で潮干狩りに行くというイベントをすると200人以上の方が参加してくれる。一方、食事サービスには来る人もスタッフも同じメンバーが何年も続けていて、お互い高齢化している。例えば、潮干狩りに来た若い人が食事サービスの手伝いをしてくれるなど次の世代への入れ替わりがあればいいが、なかなか難しい。
- ・ 地域で夜店をすると、こども達や若いお父さん方もたくさん参加してくれる。そこで、そのお父さん方に地域のお手伝いの声を掛けるが、なかなか・・・。
- ・ 地域コミュニティというのは、みんなで顔が見える化して、何かのときは見守る。こどもならば悪いこととしてたら注意してあげる。お年寄りには、最近顔を見なければどうしてるかなと気にしてあげる。そういったことが防災・防犯、見守りにつながると思っていて、地域でいろいろ活動している。
- ・ 青少年指導委員を数年間させていただいており、毎月25日に夜の見守りをさせていただいている。見守り中にこども達を見かけることはあまりないが、それ以外のときに、花火を公園でしているこども達を見かけた際には、近所のおばちゃんの立場として、「最後は水で消しときや」と軽く声をかけるなどの見守り活動はさせていただいている。
- ・ 8050問題について、知り合いにも何人かいる。お母さんと息子さんが親密で離れない。今はお母さんも元気、息子も50歳過ぎていて外には出ないけれど家では元気。そういう方は支援

を受けようとしな。それを埋もれているというのかは分からないが、そういうときにこちらから何かを言うこともできない。

- ・ [区役所] 相互依存や共依存の問題はいろいろな年齢で起こり得る。高齢者と50代でもあるし、若いお母さんとこどもという場合もある。問題の視点としては非常に大事だと認識しているが、一朝一夕に解決することは非常に難しい問題でもある。
- ・ 去年の地震のときだったと思うが、民生委員さんに見守り対象になっている方の連絡を区役所から依頼されたと思う。民生委員さんは自分の持っている名簿に載っている高齢者や障がい者に連絡をとって安否確認をされた。一方、ひとり親で幼児2人を育てている家庭なども、いざというときに荷物を持ってこども2人抱えて逃げるのは非常に難しいと思うが、そういった方々への見守りはどのように考えればいいか。
- ・ [区役所] ひとり親で小さなお子様がいらっしゃる方々のうち見守りが必要な方のみを把握することは、区としては困難であるので、日頃からの地域でのコミュニティ形成のなかで見守りをさせていただくことになると思う。
- ・ [区役所] 地域コミュニティの話のなかで、これまで参加したことも情報もなかったとの意見があった。この問いは、これまでから地域コミュニティに参加している方には見えにくいことと思うが、非常に本質的なことであると思う。この本質的な問いに対して、どうしたら人がつながっていけるのかについて、今後の部会の議論の中で、簡単には答えは出ないと思うが、少し考えていただきたい。